

15. 《武士のレジェンド、八幡太郎義家》

八幡太郎義家こと源義家（生没年＝1039－1106 年：注1）は、東北地方を平定し（注2）、奥州藤原氏の繁栄の基を築きました（注3）。この義家こそ、武士政権を樹立する源頼朝や足利尊氏の先祖です。

東北地方は、陸奥国（注4）と出羽国（注5）の2国が配され、鎮守府（武力行使機関）も設置されますが、そもそも寒くて稲作に不向きであり、任地に派遣された中央貴族が税金を取り立てるといふ、律令制のスタイルが合いませんでした。

そこで陸奥国と出羽国の有力地元豪族に実質的支配を委ねることになるのですが、それでも朝廷への税金納付もままならない状態でした。義家は、陸奥国・出羽国とも、実質的に奥州藤原氏に支配させ、朝廷へ恭順化させることに成功したのです。

義家の東北地方での戦いを通じ、馬の産地が東国にあったこともあって、馬に乗って戦う武士のスタイルが確立し、洗練されていきました。東北地方は、関東平野や大阪平野と違い、馬が足を取られる湿地帯が少なかったことも背景にあると考えます。

義家は、功績を挙げながらも、朝廷からは、戦いの間、納税を滞納したとして役職（当時は陸奥守）を罷免され、なかなか復職できませんでした。しかし、めっぽう戦に強かったことから、武士たちが憧れるレジェンドとなりました。

そしてその子孫たちが、東国武士団のトップに躍り出て日本史を彩ります。子孫たちは、関東を襲った、ある天変地異を切っ掛けに、台頭してくるのです。

注1：源義家は、京都の男山八幡宮で元服式を挙げたことから、通称、八幡太郎義家といわれます。八幡宮は、応神天皇を主祭神にし、その本社は大分県宇佐にあります。

注2：東北平定の戦いは、以下の通りです。

①前九年の役（期間：1051-1062年）：

陸奥守だった源頼義とその子義家が、出羽国の清原氏の支持を得て陸奥国の安倍氏を鎮圧。義家は、陸奥に影響力を残そうとしましたが、安部氏が実権を握ります。

②後三年の役（期間：1083-1087年）：

陸奥守となった義家が、清原氏の後継者争いに介入し、清原清衡（後に藤原に改姓）を後継者にしました。（奥州藤原三代の始まり）

注3：奥州藤原三代は、玉山金山を抱え、中尊寺金色堂を建立するなど栄華を極めますが、1189年源義経討伐を口実にした源頼朝によって滅ぼされました。

注4：陸奥国＝現在の福島県＋宮城県＋青森県

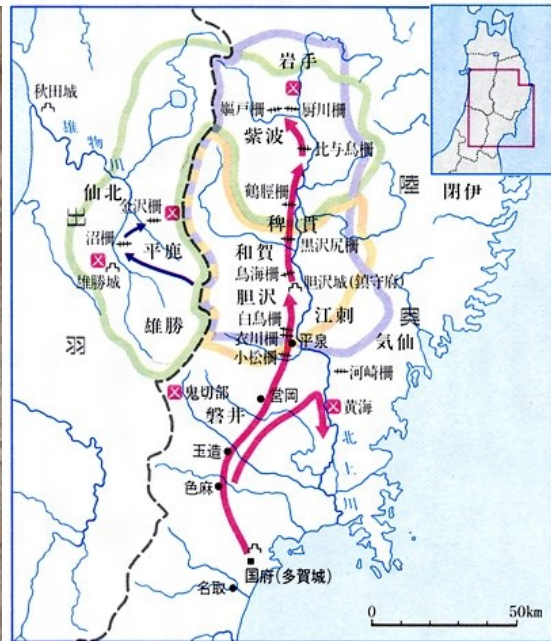
注5：出羽国＝現在の山形県＋秋田県

写真は、①源義家の像（東京都府中市、府中市けやき並木は、源義家が前九年の役に勝利した帰りにけやきの苗1000本を大國魂神社に奉納したことがはじまりと伝えられています：タチオンエリアガイド東京多摩版HPより）、②前九年・後三年の役の経過©Shogakukan、③金色堂（中尊寺HPより）

①



②



③

